

# IPMとはどういう意味ですか？

(公社) 東京都ペストコントロール協会理事 緒方 一喜

### 《質問》

最近TPPとかTHAADとか英略字が横行していますが、ビルの衛生管理に出てくるIPMとはどういう意味ですか？ (一都民)

### 《回答》

IPMとはIntegrated (統合された) Pest (害虫獣) Management (管理)の頭文字を並べたものです。現在常用されている日本語は『総合的有害生物管理』です。この手法が初めて日本に導入されて実践されたのは農業害虫に対してで、その時は[総合防除] (深谷・桐谷、1973)と呼ばれていました。

農業害虫分野でこの概念が提唱され始めたのは1960年代で、日本で研究が始まったのは1970年代です。もう40年も前の話しですから、決して新しい事ではないのです。

衛生害虫駆除でも農業害虫駆除でも、かつては駆除と言えば殺虫剤をまくことを意味しました。本誌の座談会を読めば当時の生々しい様子がよく分ります。ビルの事務室では先が見えないくらいに油剤の煙幕をいっぱい吹き込むのが常でした。ビルの害虫駆除を規制する[建築物衛生法]でも、「防除を6ヶ月以内ごとに1回、定期的に行なう事とする」としていました。つまり、害虫がいてもいなくても定期的に殺虫剤を撒きなさい、というものでした。

このやり方が、今日の衛生的環境の確保や環境保護の常識に反する事は自明の理です。

そこで、国も害虫防除法の改善のために、IPMの理念と手法を取り入れて2008年に、建築物衛生法の維持管理要領を改定したのです。一言で言えば、「6ヶ月以内ごとに防除を行なう」から、「6ヶ月以内ごとに調査を行い、その結果に基づき必要な措置を講ずること」になったのです。

### IPMによる防除活動は、基本的に下記のように進めます。

1. 防除対象建築物内の害虫獣の生息状況・被害状況の調査  
聞き取り・目視・トラップ等の方法によって、害虫獣の生息実態・被害状況の調査を行います。
2. 調査結果に基づいて、管理対象域を以下の目標水準に分類し、適切な処置をとります。
  - ① 許容水準：人の健康を損なわない良好な状態です。防除作業は実施せず、定期的調査を続行します。
  - ② 警戒水準：害虫獣の目撃は少ないが放置すると問題になる状態。発生防止対策を行い、必要に応じて防除対策をとります。
  - ③ 措置水準：目撃が多く、直ちに防除作業を実施します。
3. 防除は、まず環境整備を優先し、薬剤にトラップ等も組み合わせて実施します。
4. 防除作業後は必ず効果判定作業を行い、目標水準に対応させながら作業方法の修正等を実施します。

### 都内の建築物におけるIPM実施の実情

ビルの建築物衛生法の適用を受ける一定規模以上のビルである特定建築物は、現在東京に約7,900（平25）あります。ここには都のビル衛生検査班が定期的に検査に入ります。検査班の取り組みの実態は本誌(p.5)で紹介されているのでお読み下さい。また、ビルの現場で防除作業に実際あたっているのは、当協会の会員であるPCOです。現場におけるIPMの実情は、彼らが出席した座談会(本誌p.9)でよく理解できます。

IPMの施行が国によって制定された当初は先行きが危ぶまれたりもしましたが、現在は軌道に乗り目覚ましい成果を示しているようです。

IPMの施行3年後に当協会では、都の衛生検査班員・ビルメン業者・PCO業者に対してア

ンケート調査をしました。その結果は以下の通りでした。

IPMは適切と思うという回答は、都衛生検査班員(82.5%)、ビルメン(45.0%)

薬剤費が減ったは、PCO(42.0%)

害虫獣の生息状況が改善されたという回答が、都衛生検査班員(86.0%)、PCO(47.0%)、ビルメン(94.0%)でした。

結論として、PCOサイド側では、経費の増大と同時に効果も増大しているという評価がある一方で、ビル側の評価や協力が得られ難い現状に悩んでいるようです。

IPMの成果はかなり向上していると評価出来ると思いますが、更なる努力が必要なように見えます。

